

よくわかるIPネットワーク

株式会社ジャパテル 代表取締役CEO 佐々木宏至

このシリーズでは、主にネットワーク環境に関しての解説を中心にIPネットワークカメラの特性に踏み込んで連載してきた。今回は360度インマーシブカメラの動向、トランスコーダ、ONVIF、他の最の話題を取り上げる。

【全方位カメラ】

360度インマーシブカメラは、アナログの時代から研究して製品化されてきたが、ブレイクしたのはMOBOTIX社のQ24が最大の契機である。何といってもスタイリッシュで優れた画像品質だからだ。最近ではアジア勢や北米、その他から各種同等品が多数発売されている。ところが意外なことにサポートしているVMS、NVRなどが現状において少ないという現実がある。その最大の理由は、操作性を含めたパフォーマンスが特別なコントロール(SDK)なしに発揮できないという問題があるからだ。

トランスコーダは監視カメラの映像をパブリック配信する場合に帯域柔軟性が求められる。最近ではスマートフォンを積極的に活用するニーズが増大している。これらの用途はセキュリティ用途よりコンテンツニーズが主要である。弊社においても各種のトランスコーダを手がけているが、これが最良と言い切れる段階ではない。HTML5への完全移行までどんな進化をとげるか注目したい。

【ONVIFの今】

ONVIFは現在1.02対応が圧倒的多数となっている。PTZ制御、モーション検知、入出力、音声片方向などは動作確認が取れるものが多くなっている。同時に

全く映像が出ないなど、大きな疑問を感じるような現象も多数確認している。結局は、ONVIFにおいてもまだまだ個別に承認作業なしにユーザに提供するのとは不可能な状況だと言える。我々のVMSプロダクトではCANON FLIR MOXA SAMSUNG SANYOなどが動作確認済みとなっている。

ONVIF2.0系に関しては、実装確認が取れているモデルがほとんどない状況である。このような現状では、まだまだ先の長い道のりをたどる必要がある状況と言わざるを得ない。

【新しい潮流】

このような状況において先行しているカメラメーカーは、エッジ録画と無償クライアントにより、小規模なDVR/NVRを必要としないカメラメーカーだけで完結するソリューションを展開している。特にAXIS・カメラ・コンパニオン(別紙解説を参照)は強力な武器を持っている。何とモバイルアクセス(スマートフォン)で録画映像の再生も可能となっている。これは意外とありそうでほとんどサポートされていない技術である。

セットアップ時にはPCが必要ではあるものの、運用にはスマートフォンで事足りると言うことである。しかも16カメラまで一元的に管理することができるので、ほとんどの小規模店舗がアナログからipに移行する上での敷居が低くなったと言える。普通なら面倒なルータ設定もUPnPでほとんど自動設定が可能となっている。

ここであえて提言すると、アナログ系

専門の施工企業やシステム構築企業は本気でipに取り組まないと、気がついたらどこにも居場所がないことにもなりかねないだろう。さらに、これまでNVRを主力にしてきた施工企業やシステム構築企業においても、気がついたら売れるのはカメラとNASだけといった話になるかもしれない。

【VMSの行方】

実は既にその兆候は現れており、世界的な調査会社であるIMSリサーチ社のレポートでは、トップクラスの地位を占めていたマイルストーン社が、北米で第三位のシェアとなっている。もともとマイルストーン社は小規模案件を中心に圧倒的な優位性を持っていた。きつい表現をすると、今後小規模案件すなわち16カメラ以下の市場が「殺し合いマーケット」になっていくのは必定だろう。

現在はカメラメーカーもVMSとのパートナー関係を気にして自己抑制しているが、早い時期に32カメラまで無償のCMSで対応するだろう。なぜなら技術的には何の問題もないからだ。

それではVMSは不要になるのだろうか。これに対する答は、淘汰されるVMSと生き残るVMSの図式になり、さらにVMS自身がエンタープライズやガバメントのプラットフォームになり得るかどうにかかっているとなる。そして、近い将来にはカメラデバイスのみならずアクセスコントロール、IP-PBXやインターカム、PSIMへの対応と統合が鍵になると私は見ている。

【統合システム】

ところで、アクセスコントロールとビデオ統合の普及が進まない最大の要因は、メーカーサイドの問題ではなく、施工企業がシステムの複雑化を嫌ってメーカーに要請しないことにある。

しかし、ビジネスチャンスは、待つものではなく作るものだ。どこか大手一社が提唱したら大きなムーブメントとなっていくだろう。実はそれが既に始まっていると私は確信している。例えば、オペレーションと運用コストを考えたら、IP-PBXやインターカムの統合で膨大な需要が発生する。

今回はクラウドをテーマにした話を紹介する。



アクシス・カメラ・コンパニオン (AXIS Camera Companion : ACC)

ACCは最大カメラ16台までの最も簡単なビデオ監視ソリューション。本システムはSDカードスロットを内蔵した標準的なAxisカメラ、SDカード、PC用クライアントソフトウェアACC、スマートフォン、一般的なネットワーク機器で構成する。ライブや録画映像は、インターネット経由で遠隔場所から見ることができる。

【高い費用対効果】

ACCシステムは、全ての映像を各カメラ内のSDメモリーカードに録画するため、DVRやNVR、PCやサーバなどが不要。しかもACCシステム内のカメラは、ネットワークの状態にかかわ

らず映像録画ができる。このように、費用対効果が極めて高い。

【簡単な操作】

ACCは、エンドユーザが簡単に使えることに焦点をあてている。無料のACCクライアントソフトウェアを利用してシステムをインストール。その後、ライブ映像、録画映像、イベント後の映像のエキスポート等には、PC用のACCクライアントソフトウェアやスマートフォンアプリ(サードパーティー製)を利用するだけで、ライブ映像や録画検索、ビデオ/スナップショットのエキスポートなどが簡単に行うことができる。



貴方のセキュリティ
システムの
DNAは?



自在に選べる、 堅固な統合セキュリティシステム

実績豊富なオムニキャスト・ビデオ監視システムを搭載したSecurity Centerから始めましょう。入退室管理、侵入検知、資産監視、ビル管理などのビジネスシステムが次の展開となります。すべてのシステムと設備でモニター、アラーム管理、レポートを統合します。進化する統合のかたちをご覧ください。

See what you need at genetec.com/jp/SecurityCenter

ビデオ監視システム | 入退室管理システム | ナンバープレート認識システム

革新的ソリューション

